

神主さんに聞く、人生儀礼は何のため？

料理屋の
おいしい話

vol.09



「料亭義経」「割烹きの屋」に関わる人たちが、店、食材、日本料理、文化について語り合う対談企画。今回と次回の2カ月は、代表・高山将士が玉山神社の禰宜・中村雅俊さんをお迎えし、人生儀礼についてお話しいただきました。

長寿のお祝い、
覚えていますか？



「義経」は「ご家族のお祝い、人生儀礼での利用も多いですよな。」

高山 当店は還暦や喜寿、米寿といった長寿祝い、また、お子様の初節句などにも使っていたりしています。が、実は僕には苦しい思い出がある。と、そういえば自分の親はいったい何歳で亡くなったか？と数えてみたら61歳で、還暦を過ぎていたんです。何かやってあげればよかったと後悔。

中村 人生儀礼の意味は諸説あると思うのですが、これは人生の節目をお祝いするものです。今は生まれてくること、成長すること、長生きが当たり前になっているけれど、昔はそうではなくて、生まれて良かった、ここまで育つて良かったとそういう気持ちがあったのだと思います。各家庭ではお祝いをしているのかもしれませんが、昔ほど盛大ではなくなりました。

高山 お宮参りはお祝いしてもらいうけど、初節句の時はあまりしませんよね。神様への感謝やご報告のためにも、僕は初節句も神社に行っていないと思うんですよ。

中村 そうですね、それはこちらもうれしい。人生儀礼自体も成の日の安産祈願や初節句など「これだけは外せない」もの以外はそこまで気に

されていないかも。意味が分かれればもつと興味を持ってもらえると思うんですけどね。

料亭が
和の文化を伝える



高山 最近は人生儀礼を学ぶのが面白くて仕方ない。お客さま方にも共感していただけると思うんです。人生儀礼以外に年間の節句についても調べていて、例えば、奇数は本来縁起のいいものとされているのですが、3月3日、5月5日のように奇数が重なる日は逆に不吉と捉えられるそうです。だから邪気を払い、お祈りするのだと。節句ごとに食べ物も決まっています。重陽の節句(9月9日)には長寿の願いを込めた菊酒を飲み、端午の節句には昔の侍たちが戦に携帯したちまきをいただく。勝負運を高めるのだそうです。

—— 知りませんでした！ 聞けば本当に興味深い。年配者との交流が減った今、人生儀礼のことを知る機会も減っているのではないのでしょうか。

中村 それを伝えるのも私たちの役目。しかしながら神社は夜遅くまでやっていませんから、「義経」さんのようなお店が神職をつつてくださったこと、人生儀礼を伝えようとしてくれることはとてもいいこと

とだと思います。

—— 確かに。この6月に新たに神殿が完成し、祝いの舞台がより充実しましたよね。

高山 お客様との距離が近いことが僕たちの強みですから、僕みたいに忘れて残念な思いをさせないように、例えば「今年はお父様が喜寿のお祝いですね」とお声掛けしていきたいと思っています。そしてせっかくお祝いするなら、神殿で気持ちも高めていただきたい。

中村 「義経」さんの取り組みが、改めて人生儀礼を見直し、興味を持ってもらうきっかけになってくれたらいいな。期待しています。

—— 次回は「義経」に新たに完成した神殿について伺っていきます。中村さん来月も引き続きよろしくお願ひします。



義経・きの屋代表
高山将士

鹿屋市出身の37歳。18歳で上京、日本料理店での修行を経て、家業を継ぐため帰郷。料亭義経、割烹きの屋を経営。



玉山神社
中村雅俊

鹿屋市出身の39歳。京都國學院で正階(神職の資格)を取得。京都・石清水八幡宮、川内・新田神社を経て、玉山神社の禰宜に。

料亭義経

鹿兒島県鹿屋市向江町15-13
☎0994-41-3500 月曜定休
11:30-14:30、18:00-22:00
●ご家族のお祝い事にもどうぞ。



料亭義経



きの屋

鹿兒島県鹿屋市新川町601-2
☎0994-41-3502 月曜定休
11:30-14:00、18:00-22:00
●単品メニューご用意あります。



割烹きの屋

